

亀山

基礎データ

【人口】1,301人(H21.5.31現在)
 【世帯】352世帯(H21.5.31現在)
 【面積】約890ha
 【公共施設】亀山小学校・西ノ浜海浜公園・休暇村伊良湖
 【史跡】西ノ浜製塩遺跡群
 【主な産業】農業



●ウシノケヤマから市民館方面(北側)を望む

校区の特徴

田原市の西端に位置する亀山校区は、広大な畑の広がる農村地帯です。集落の中を国道259号が東西に通る、西ノ浜海岸には防砂・防風保安林と、その森や水辺を利用した海浜の森があります。主産業は農業で、専業農家が多くを占めています。夏はスイートコーンや露地メロン、冬はキャベツを中心に、農業生産高の高い地域です。

校区民のつながりは深く、連帯感のある静かな土地柄です。緑に恵まれた自然環境の中で、「心安らぐ、緑豊かな、美しい地域亀山」を目指し、環境保全推進協議会を中心に、住民たちの交流活動の一環として、西ノ浜や排水路などの清掃を行い、清潔な地域づくりを進めています。



●昨年の市民館まつり

校区の歴史

◆亀山地区

縄文時代中期の「西田原遺跡」や

同時代後晩期の「川地貝塚」などの発掘調査により、原始時代からの生活舞台であったことが推測されています。古代・中世における渥美半島先端地域への文化の流入は、亀山地区にある豊島ヶ池周辺へのルートが考えられており、さらに、「亀山」の由来は「神山」ともいわれることから、歴史上重要な意味を持つ地域といえます。

また、豊島ヶ池周辺には烏丸大納言(室町時代の大臣)の古城があったとされています。この池は「底なしの池」と称せられ、古来より多くの伝説を持ちます。現在は畑となっており、その一角に三本松明神が残されています。



●三本松明神

◆西山地区

昭和21年4月から西山の国策開拓が始まり(以前は陸軍の試砲場地)、それに伴い入植者が増え、石斗・中里・穂波の3集落が結成され西山地区が誕生しました。当初、86戸の入植者によりサツマイモ、小麦などが作付けされましたが、肥

料不足・干ばつ・水害などで苦難の日々が続きました。その後、西山を大きく変えたのは昭和43年の豊川用水の通水でした。昭和48年には開拓を記念し『西山のあゆみ』が刊行され、『開拓記念碑』が建立されています。



●西ノ浜の海岸清掃

亀山の里山

集落周辺の自然環境に、亀山の里山「大人の家山(ウシノケヤマ)」があります。山頂からは、北側の地域を一望でき、背後では、片浜十三里も眺めることができます。また、子どもたちの山すべりや、地域住民の散策の場としても親しまれています。



●ウシノケヤマから見た日の出

(岩瀬隆洪さん撮影)